

沼津港新ビジョンの策定

1. 沼津港の果たす役割(基本理念)

沼津港が公共空間として長期に亘り魅力を発揮し、地域の人々が憩うとともに、働き甲斐のある場所として、沼津市はもとより県東部・伊豆地域の活力の源となっている。

2. 将来像(目指す姿)

- ここにしかない沼津港の魅力(「食」、「港町・市場」、「景観」)が日々高められている。
- ここで働く人々が笑顔で活気に溢れている。
- 地域住民が愛し、憩う場となり、その良さを訪れる多くの人々が共有している。
- 港の活力が中心市街地、県東部地域、伊豆地域へと波及している。

3. 将来像を実現するための方針

- 1. 魅力の向上と新たな魅力の創出により来訪者へ多様な楽しみを提供する。**
 - 駿河湾の豊富な海産物を駆使した沼津独自の本物志向・健康志向の食文化を体験できる場とする
 - 海産物に加えて地場の良質な食材(野菜・肉等)を活かした世界各地の料理等、多様な食文化を味わい学べる場とする
 - 歴史ある漁港の核となる市場を維持し、市場で活躍する人たちが醸し出す風景を将来に亘り確保する
 - 沼津港をとりまく優れた自然景観を借景に、自然と調和した統一感のある景観を形成するとともに、多数のビューポイントを築く
- 2. 活力あふれる働きがいのある港にする。**
 - 現在の市場・飲食店街等の賑わい、活力の維持・発展を図る
 - 港で生業を営む人々が様々な活動を企画し、実行できる場と機会を創出する
 - 関係する多様な業種が交流できる場を設け、アイデアを持ち寄り連携して取り組む仕組みを用意する。
- 3. 地域の「庭」として住民の生活に溶け込ませる。**
 - 地域の人々が楽しみを見出し、居心地の良さを感じる仕組みを展開する
 - 地域の人々が港に集い、交流し、活動できる場と機会を創出する
- 4. 沼津市、伊豆地域、県東部地域の「玄関口」として、訪れた人を迎え入れ、周辺地域へいざなう仕組みを充実させる。**
 - 陸上交通、海上交通の結節点としての機能を充実させる
 - 周辺地域の魅力を結び付け、沼津港と周辺地域との周遊性を確保する
 - 来訪者を迎え入れ、港内や周辺地域へいざなうコンシェルジュ機能の充実を図る
- 5. 誰もが安全・安心に利用できる港にする。**
 - 物流機能は外港に集約し、観光利用との混在を解消する
 - 安全な歩行者動線を確保する
 - 地震・津波対策をより充実させる

4. 魅力を高める方策

- 1. 重視すべき視点**
 - **風景を楽しむ**
 - 例 { ・統一的な指針を設け、借景を利用した景観設計を行う
 - ・みんなの手で景観を守る体制を構築する
 - ・清掃活動等、清潔感を保つための協力体制を構築する
 - **食文化を学び楽しむ**
 - 例 { ・沼津港独自の食文化を際立たせ、協力してPRする体制を構築する
 - ・地域の農畜水産物を結び付け、沼津港で活動する場を設ける
 - ・沼津の食材を世界の食文化につなげる仕組みを構築する
 - **自然・歴史を学ぶ**
 - 例 { ・学ぶべき情報を集約・提供する体制を構築する
 - ・沼津港周辺の自然・歴史を、現地で感じ学べる仕組みを構築する
- 2. 引き出すべき力**
 - 「場の力」・「人の力」を最大限に活用する
 - 例 { ・沼津港の持つ「場の力」を見極め、最大限に活用する
 - ・「人の力」を発掘し、結びつける仕組みを構築する

(ここまで有識者会議)

5. エリアマネジメントの導入

- 1) エリアマネジメントとは
- 2) 目標実現に向けた組織体制の構築

(別途検討)

6. 具体的方策(取り組み)

- 1) 「場の力」「人の力」の整理
- 2) 魅力を最大化する「場」の設定
(ここまで第3回策定委員会、以降は第4回)
- 3) 全体での具体的方策
- 4) 各場における具体的方策